

■中上健次 小説家。熊野をベースに、強烈な野性を持つ新人として登場し、独自の世界を開くも、早世した。

なかがみけんじ

新憲法公布・1946＝ 和歌山県新宮市春日で、鈴木留造の私生児に生まれる。

父は喧嘩早く刑務所入りを繰り返し、行商で家計を支える母ちさとに代わって、三人の姉に育てられ、

独立回復・・・1951＝ 5歳：

メーデー事件・1952＝ 6歳：_小学1年の頃、差別を受ける住民の姿を目の当たりにする。

テレビ放送始・1953＝ 7歳：母が健次をつれて家を出、土木作業員中上七郎と世帯を持ち、

55年体制始・1955＝ 9歳：

インスタントラーメン・1958＝12歳：_中学1年の頃、国語教師山本愛と出会って文学に目覚め、以後、生涯敬い続ける。

美智子妃・・・1959＝13歳：部落差別から縁談を壊された12年上の兄行平が自殺、

安保闘争・・・1960＝14歳：

中学から高校にかけて、イジメを受け続けるが、

全国総合計画1962＝16歳：正式に入籍して、母の木下姓から中上姓となり、

高度成長で義父の仕事が順調になったことから、以後、生活に困ることは無く、

東京テレビック 1964＝18歳：

大学紛争始・1965＝19歳：_新宮高等学校卒業するや、上京。地元詩人の{道}同人となつて、詩を発表しながら、

いざなぎ景気1966＝20歳：_家から仕送りを受けて生活しつつ、{芸芸首都}に加わつて、小説やエッセイを書き始めるうち、新人詩人をリストアップしていた文藝春秋{文学界}新米編集者高橋一清に呼ばれ、

震ヶ関ビル・1968＝22歳：_作品が掲載されて、初めて原稿料を得、柄谷行人と出会い、以後親交する一方、親族の殺人事件が起きると、地元紙に挑戦するかのような「故郷を葬る歌」を発表し、以後詩作を止め、小説に専念。

全共闘・・・1969＝23歳：_河出書房{文藝}編集者鈴木孝一に見出され、「一番はじめの出来事」で文壇デビューするも無視される。連続射殺事件を起こした永山則夫へ共感。自らの詩に共感して{芸芸首都}に入ってきた山口かずみと同棲し、子ができたことから結婚、強く生を意識。仕事にも就くが、アルバイトの不注意から大怪我し入院。

ドルショック・・・1971＝25歳：_鈴木に鍛えられながら、何とか掲載された2作目の短編「火祭りの日に」も話題にならず、

日中国交回復1972＝26歳：_初めて自らのルーツを暴く「エレクトラ」を持ち込むも、鈴木から掲載を断られるが、

石油ショック1973＝27歳：_入院中に書いた「十九歳の地図」が芥川賞候補作となると、以降、仕事も止めて、創作に専念し、傑作「火宅」「蛇淫」はじめ一気に10作を書くとともに、毎年候補作に挙げられるほどになり、

田中角栄逮捕1976＝30歳：_*「岬」で第74回芥川賞を受賞、強烈な野性を持つ新人として注目される。多額の印税が入り周囲から騒がれるうち、妻が両親と娘を連れて家出したが、離婚止めるよう懇願して戻る。小川国夫との対談を契機に、

JALハイジャック・1977＝31歳：_*代表作「枯木灘」となり、野間宏・安岡章太郎との鼎談を契機に、和歌山の被差別部落を回るルポルタージュ「紀州 木の国・根の国物語」を連載、現実の凄さに身を縮め、

成田衝突・・・1978＝32歳：_部落青年文化会講座(熊野大学)を開始。実父への手紙のようなエッセイ「祖母の芋」が熊野新聞に掲載。

革新大敗北・1979＝33歳：_翌年にかけてアメリカ訪問中、かつての部落は改善事業で跡形もなく解体され、愕然とする。

貿易摩擦始・1980＝34歳：_「鳳仙歌」を経て、

中曽根内閣・1982＝36歳：_「千年の愉楽」を挟んで、

テレビモニタ・1983＝37歳：_西新宿のマンションを仕事場にし、「地の果て至上の時」にまで発展する。

・・・・・・1984＝38歳：_それと雁行した短編連作「熊野集」も注目される。

リクルート事件・1988＝42歳：_八王子の家が火事で全焼し、家族の記憶になるもの全てを失い、

昭和天皇没・1989＝43歳：_中野のマンションで単身生活を始めたが、

ソ連崩壊・・・1991＝45歳：_新聞小説「軽蔑」を最後の長編として、

バブル崩壊・1992＝46歳：_癌のため、郷里の和歌山県東牟婁郡那智勝浦町の病院で、_没した。